

環境省 「がれき処理は大人の責任」 災害廃棄物の安全性強調

環境省は3月23―25日、三越銀座店（東京・中央）で「東北復興に向けた災害廃棄物処理推進展」を開催した。宮城県石巻市立湊小学校の生徒が災害廃棄物の木くずを使って作成した卒業記念トロフィーなどの展示を通し



細野豪志環境大臣



湊小学校の児童も駆け付けた

に遊べる場所を作るのが大人の責任」と広域処理推進への決意を語った。

て、東北復興への思いと災害廃棄物の安全性をアピールすることがねらい。23日にはキックオフイベントが行われ、細野豪志環境大臣が「子供たちの目の前からできるだけ早くがれきを取り除き、安全

細野大臣は「がれきは単なる廃棄物でなく思いが詰まっていることを知ってほしい。現地で処理をしきれないものについては国民の皆さんの思いとともに広域で処理させていた

した「がれき再生パーティクルボード」を使用している。パーティクルボードを提供した東京ボード工業（東京・江東）の井上弘之社長は「当社も石巻の工場が流され従業員も被災した。間違った風評があるが、空間線量以上の放射線は検出されていないことをご理解頂きたい。安全がチェックされているものについては広域処理を支援頂き、再生品を積極的に利用してほしい」と訴えた。

イベントには湊小学校の児童も参加し、トロフィーについて「私たちの未来が復興した石巻になるよう願っている」とあいさつした。処理推進展では災害廃棄物の木くずを100%使用